

平成24年度 入学試験問題

国語 A

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は50分間です。
3. 問題は「一」～「五」までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
6. この問題冊子にも受験番号、氏名を書きなさい。

受験番号
番

氏 名

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしが住んでいる山間の村は、皿山と呼ばれている。この十二軒の家は、何百年もの間、陶器づくりを家業としてきた。わたしの家でも、とうさんがじいちゃんの手を受け継ぎ、陶芸を続けている。この春、わたしは高校生になった。ある日クラブ顧問の先生から、その先生と同級生だった統吾おじさんの話を聞いた。

皿山の^a テイリユウジヨで降りたときは、もう暗くなっていた。火をおこしている匂い^{にお}がする。杉の木屑^{くず}の燃える匂いだ。ふた月に一度、この匂いが村を包む。いく筋もの白い煙が窯の煙突から立ち上る。

「おお、由香、おかえり」

^b 道沿いの登り窯の前で、坂口のおじちゃんに声をかけられる。

「ただいま。おじちゃんどこ、今日、火、いれよったの」
(入れてたの)

「そげんたい」

「じゃあ、今日から^①寝ずの番たいね。ごころうさんです」

「ありがとう。由香ちゃんとはあさってからでしょ」

おばちゃん言う。

「そうみたいや。今日から窯詰めや言うもったき」

窯詰めというのは、作った陶器を焼くために、窯のなかに器をいれる作業を言う。窯入れともいうそれは、家族全員でやつても二日ばかりだ。学校が休みのときにはわたしも手伝う。

いったん窯に火がはいれば、今度はまる二日、窯のそばにつきっきりになる。これは家族で交替でやる。じいちゃんとはあちゃん、じいちゃんとはあさん、とうさんとばあちゃん、そんなふうに替わりながら、ふたりずつで番をする。

ときおり窯を覗き込むようにして、火の加減を見る。火の加減を見るのは、じいちゃんかとうさん、男たちの仕事だ。炎の影がじいちゃんたちの頬のうで揺れる。そのときのじいちゃんやとうさんの張り詰めた顔が小さいころから好きだった。

1 ぎーっ、とん。ぎーっ、とん。

^{注1} 恐竜の鳴き声を聞きながら、高橋先輩から^c かりた『大岡信詩集』を読む。

『青空』という詩があった。

2 それを読みながら、わたしは統吾おじさんのことが思い出されてしかたなかった。皿山を捨てたおじさん。この家ではけっして口にされることのない統吾というその名前。

3 おじさんは長男じゃないから、陶工にならなくてもよかった。

「大学は行きたかやつたら、行けばいい。おまえは勉強もようできるようだから、がんばって九大に入ればいいと」

4 じいちゃんも最初はそう言っていたらしい。一子相伝の誇りを守る長男と学業優秀な次男とは、ともにじいちゃんの自慢だった。

5 それがうまいこといかなかったのは、おじさんが東京の大学に行くと言い出してからのことだった。

じいちゃんやばあちゃんには、おじさんがどうして東京の大学にこだわるのかわからなかった。

6 「おげんとこは、おれの住むとこやなか」
(こんなところ)

あるとき、おじさんはそう言った。

「おげんとこば、言いよったな。おげんとこばと。おまえが言うおげんと

こがおまえを育ててくれたと」

「それがいややったんや。なんもかんもいややった。こん山全体が一族で、窮屈で不便で。早うおとなになつて、ここを出ていくんや。おげんとこで、おれは生きていこうない」
(いたくない)

「なんやと？ いま、なんて言うた？ もう一度言ってみい」

「何度でも言うたる。おげんとこで生きていこうないんや。兄ちゃんは言わんけど、兄ちゃんだつて、こころんなかじゃ、そげん思つとるはずや。みんな、ここに縛られて生きとるんや」

② じいちゃんのびんたがおじさんの頬を打つて、それからはずかみ合いになつた。

ばあちゃんが泣いてじいちゃんに詫び、^③ とうさんがおじさんをなだめ、その場をなんとか収めた。

その日から、じいちゃんとおじさんは口をきいたことさえないという。口をきかないまま生活をし、口をきかないまま受験の日を迎え、口をきかないままこの家を出ていったと。

「いや、さすがに行つてくるとか何とか言いよったかもしれん」

「それつきり？ そんなときからいまのままで」

その話をとうさんから聞いたとき、わたしは思わず聞き返した。陶芸のこととなるとゆずらないところがあるけど、ふだんは穏やかでやさしいじいちゃんだ。

「ああ、そんなときからいまのままで。どっちもじゅうげもんやからな。ばあちゃんはいだにはいつて大変やつたらう。なんもかんもじいちゃんに内緒で、仕送りしたりな。まあ、ばあちゃんが仕送りしとることは、じいちゃんだつてわかつてはいただらうけど」

じゅうげもんとは、頑固者のことを指す土地の言葉だ。

わたしがそんな思いをからだのなかにしまっていることに気づいて、^⑥と
うさんはおじさんの話をしたのかもしれない。

そういう生き方もあるのだということを、わたしに伝えようとしたのか。
そんな生き方をおまえはするなど言いたかったのか。

「なあ、とうさん」

「なんね？」

「おじさんは、ここがきらいだったん？ だから出ていったん？」

「きらいというのは違うなあ」

「じゃあ、どうして？ なんかあったと？」

「重かったんやろう」

「重かったって？」

「時間。じゃなかるうかな。ここに流れとる時間が、あいつには重かったん
だろ。百年も二百年も変わることを許さないこの村の伝統ちゅうかな」

「伝統を守っていかならんのはとうさんたい。おじさんじゃなか」

とうさんは黙った。黙って、川の流れを見ていた。^⑦とうさんの横で、
わたしも黙ったまま、時を過ごした。そうしながら、いましがた聞いたば
かりの時間の重さというものを考えていた。

わたしのなかで、時間は、古ぼけた厚い布団ふとんのようなものになった。そ
れはとても重く湿しめっていて、その布団をかけられたわたしは、身動きがと
れなくなっていた。

「だからって、なにかも捨てんでもよか。ここはおじさんの生まれたと
こやのに」

と、わたしは言った。

「許せんかったんやろう。じぶんだけ好きに生きて、都合のいいときにだけ、
ここが故郷やって帰ってくる。そういうことが、じぶんに許せんかったん

やろう」

「^(ほんとうに)や」

「^(ほんとうに)や」

とうさんはそう言うと、白い歯を見せて笑った。(中略)

わたしたちが黙ると、入れ替わりのように、川の水音が聞こえた。

夏の光が水面で踊おどって、水はきらきらと光っていた。

ここが好きやけん。^(好きだから)

そうわたしは思った。とうさんが好きやけん。そう

強く思った。

恐竜はいつものように鳴いていた。わかつとう、わかつとうと言うみた

いに。

(内容を一部省略しました)

【石井睦美 「皿と紙ひこうき」】

注1 恐竜の鳴き声…大きな杵きねと臼うすが、陶器を作るための土をついて

細かくするときに立てる音のこと。川の流れて

動き、一年中働き続けている。

注2 九大……九州大学。

注3 一子相伝……自分の子ども一人だけに、最も大事な技や精神

を伝えること。

問い一 ……線aとcのカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しな
さい。

問い二 ———線①「寝ずの番」とは、具体的にどうすることですか、説
明しなさい。

問い三 ———線②「じいちゃんのびんたがおじさんの頬を打って」とあ
りますが、なぜ「じいちゃん」はそうしたのですか。次のア～エ
から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア おじさんが、陶器とうぎづくりになるという家のしきたりに従わな
かったから。

イ おじさんが、この皿山やそこで暮らしていく生き方を、否定
したから。

ウ おじさんが自分に反抗はんかうすることを、頑固がんこなじいちゃんは許せ
なかったから。

エ おじさんが自分の頭の良さを鼻にかけて、皿山の不便さを非
難したから。

問い四 ———線③「とうさんがおじさんをなだめ」とありますが、「と
うさん」と「おじさん」との関係が書かれている部分を本文中か
ら二十字以内でぬき出し、最初と最後の三字を答えなさい。

問い五 ———線④「その話」はどこから始まりますか。その始まりを本
文中の1～6から選び、番号で答えなさい。

問い六 ———線⑤「べつのどこかで暮らしたら、わたしはどうなるのだ
ろう」について、なぜ「わたし」はこう思うようになったのですか。
本文中の言葉を用いて五十字以内で説明しなさい。

問い七 ———線⑥「とうさんはおじさんの話をした」とありますが、「と
うさん」は、なぜ「おじさん」が「皿山」を出て行っただと考える
いますか。それが具体的に書かれているひとつづきの二文を本文
中からぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問い八 ———線⑦「とうさんの横で、わたしも黙ったまま、時を過ごし
た」とありますが、この後の部分に、「わたし」の「皿山」に対す

る思いが二つ、書かれています。それぞれを簡潔にまとめなさい。

問い九 にあてはまる七字以内の語を、本文中の「とうさん」の会
話部分からぬき出して答えなさい。

問い十 本文の内容に合っているものを、次のア～オから二つ選び、記号
で答えなさい。

ア 中学一年のわたしは、おじさんの生き方をよくは思わなかつ
たが、理解できる場所もあった。

イ とうさんには、生まれ育った故郷をきらっていたおじさんの
考え方がわからなかった。

ウ 陶芸にやりがいを感じていたとうさんは、皿山で生きていく
ことにも迷いはなかった。

エ じいちゃんとおじさんが仲直りしないため、ばあちゃんもお
じさんに会えなかった。

オ 今でも家で話題にのぼることがないおじさんのことが、高校
生のわたしには気にかかった。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本には、さまざまな文化^a イサン^bがあります。

その中から、ひとつ例をあげて考えてみたいと思います。

これは戦国時代、豊臣秀吉^cの時代に描かれた四季図、いわゆる花鳥図という絵についてのお話です。この絵を描いたのは、狩野永徳^dという人です。狩野永徳は秀吉の寵愛^eを一身に受け、非常に多くの作品を描きました。けれども、秀吉のお城が焼き討ちにあたりするたびにどんどん燃やされてしまつて、現存する作品は非常に少ない。

しかし、^①その中のいくつかは残っています。その一つが、大徳寺聚光院^fというお寺にある花鳥図なのです。

この花鳥図とは、いったいどういう絵なのでしょう。

花鳥図には、右から春夏秋冬という四つの季節が描かれています。

具体的にいうと、春には梅が描かれているわけです。春といえば梅。桜が春の花となつたのは、最近のことです。

そして夏には溪谷^gが描かれていて、さらに左に進むと秋の気配、そして冬の情景へと変わっていきます。

なぜ狩野永徳はこのような絵を描いたのでしょうか？ 春なら春、夏なら夏で別々に描けばよかつたじゃないですか。^②それをどうして一枚の絵の中に入れたのでしょうか。

まさに時は戦国時代。血で血を洗うという怖い言い方をしていいかどうかわかりませんが、そういう戦乱の時代において、四つの季節というのは、まったく考え方もカチカンもちがう、いつてみればいがみあう四人の戦国大名たちのような存在だつたのかもしれないね。

その戦国大名たちが、それこそ殺し合いをしている世の中。そのような

るミュージシャンがエレキギターをかきならして何か歌っています。歌うことを通して、彼はわたしたちにいったい何を言おうとしているのでしょうか。彼はおれの気持ちをわかつてくれ、と歌っているのではないのでしょうか。

(2) 画家たちが、本当にわけのわからない、フクザツな絵を描いて壁に飾っています。それは何をしようとしているのでしょうか。伝達不能に近いかもしれないけど、自分の世界をわかつてほしい、とみんなに見せているのではないのでしょうか。

文学者が文学を、小説を発表するのも、自分の美しいと思える話、心痛める話を、ひとりでも多くの人に読んで理解してもらいたい、といっているのではないのでしょうか。

料理人が何かお料理を作ります。それは、わたしはこれがとても美味しと思う、みなさんどうですか？ と、わたしたちに問いかけているのではないのでしょうか。(中略)

考えてみると、それはアルタミラの時代からずっと同じなのです。^⑤アルタミラの壁画^hからは、一万五千年後のわたしたちが見ても、当時壁画を描いた人たちが、どんなコミュニケーションⁱをしようとしていたのか、どんな夢をもっていたのか、どんなことを想像していたのか、ということが伝わってきます。

人々は茶色い色で牛を描いていたわけです。牛というのは、昔から茶色い色だったし、その茶色い色を忠実に描こうということで、一生懸命悪戦苦闘^jしている。そういう試行錯誤^kもわたしたちに伝わってくるのです。

そこでひとつ感じる必要があります。

例えば芸術作品の感動とは、いったいどういうことなのだろう。これは色がきれいだから、形がきれいだから、ということではないのです。

中で豊臣秀吉は、自分のすぐ身近に四季の絵を掛けておくのですね。

豊臣秀吉が「いまから戦いに行くぞ」「皆殺しにしろ」と言っている。その後ろに描かれている絵。

この絵のことをもう少し考えてみましょう。

一枚の絵の中に、春と夏と秋と冬が^③絶妙なハーモニー^lを奏でながら、調和している。

狩野永徳は「いがみあう戦国大名たちも必ずある折り合いをつけることによって、美しくひとつの世界の中で調和することができる」と説いている、と考えたらどうでしょう。

(1)、秀吉のすぐ身近で、永徳は反戦絵画を発表していたのではないのでしょうか。だとしたら、^④もし秀吉にそのことがばれてしまったら、永徳はたちまち殺されてしまったかもしれません。

狩野永徳は、命がけで反戦絵画を描いていた。

どんな人とも必ず折り合いをつけることができる。そして美しくハーモニーを奏でることができる。これが芸術ということなのではないのでしょうか。

まさに仲良くやる知恵としての芸術。そこに狩野永徳という歴史上の大家のすぐみがあるのです。(中略)

絵画と映画と音楽とバレエと文学とお料理、まだまだ芸術といわれるものはいっぱいありますけれども、そういうものの共通項^mは何か。

いまいったようなてんでんばらばらのようなものに、果たして共通項があるとしたら、それは何でしょうか？

自分の気持ちをなんとかして伝えたい、と思う心が生む行為。これがすべての共通項ⁿではないのでしょうか。

例えば耳からカミソリを下げて、髪の毛をボマードでガッチリ固めてい

では、人はどういうところで感動するのかな？

芸術というのはコミュニケーションであり、なんとかして自分の思いを伝えたいという心の表れです。だとしたら、芸術に感動するというのは、そのなんとかして伝えたいとする心意気に対する感動なのではないのでしょうか。

何かをうまく描きました、ということでは人は感動することはないのです。うまければうまいに越したことはないけれども、もっと大切なことは心が伝わるかどうかです。なんとかして伝えようと思つて夢中で描いている、その気持ちが相手に伝わったときに人は感動するのです。だから^⑦ヘタでもまったくかまいません。

イマジネーション^oをコミュニケーションする。それは、ひとりでは生きていけない人間にとって、絶対的なことなのです。そして美という生きる力の感覚を鍵穴^pにしてわたしたちに本能として与えられたこと、それが芸術なのです。

芸術的発想とは人間的発想と同義語です。芸術とは仲良くやる知恵。芸術とふれあつて、自分と異なる考え方の人を認め、いろいろな意見があるのだなということを知り、しかしわたしたちはみな同じ人間なのだ、ということにも気付く。そして他人のよろこびを自分のよろこびとし、他人のかなしみを自分のかなしみとし、ともによるこび、ともにかなしみ、心をかよわせることの大切さを知る。そんなすばらしい大人になって下さい。

(内容を一部省略しました)

【千住博「わたしが芸術について語るなら」】

注 イマジネーション：想像。ここでは自分の気持ちのこと。

問一 線 a・b のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 (1)・(2) にあてはまる言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ つまり ウ だから エ あるいは オ さて

問三 線①「その中」の「その」が指しているものを答えなさい。

問四 線②「それをどうして一枚の絵の中に入れたのでしょうか」とありますが、その答えを次のようにまとめました。[]にあてはまる言葉を①は十二字以内、②は二字で本文中からぬき出しなさい。

1 [] を四つの季節で表し、それを美しい一枚の絵に入れることによって、どんな人とも 2 することができるとい自分の考えを表したかったから。

問五 線③「絶妙な」の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 順序よく正しいこと イ ゆったりとおだやかであること ウ 夢のように美しいこと エ この上なくたくみであること

問六 線④「もし秀吉に殺されてしまったかもしれません」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 戦うことに意義を認めている秀吉のことを否定することになるから。
イ ご恩のある秀吉の姿が四季図の中にまったく描かれていないから。

ウ 反戦絵画を身近に飾っておくと、秀吉の戦う意気がさがってしまうから。

エ 永徳の意図がくみ取れなかったことは、秀吉にとって恥になるから。

問七 線⑤「アルタミラの壁画」が感動を与えるのはどういう点ですか。本文中の言葉を用いて具体的に説明しなさい。

問八 線⑥「コミュニケーション」とはどういう意味ですか。本文中から二字の熟語をぬき出して答えなさい。

問九 線⑦「ヘタでもまったくかまいません」とありますが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 人はうまい作品よりヘタな作品の方がかえって心がこめられているように感じ、感動するから。

イ 見る側にとって、完ぺきに描かれてしまっているより、ヘタな方がより想像力をかきたてられるから。

ウ うまいとどうしても色や形に目がいってしまい、作者の心が伝わりにくくなるから。

エ 芸術に感動するのは、そのうまさではなく、作者の気持ちに對するものであるから。

問十 芸術についての筆者の考えを次のようにまとめました。[]にあてはまる言葉を①は十五字前後、②は三字で、本文中からぬき出しなさい。

芸術とは 1 という気持ちから発する行動が生むものであり、それを通じていろいろな人と心をかわせて、 2 するためのものである。

問三 線①「結果」の反対語を答えなさい。

問四 線ア～カからこの文の主語を選び、記号で答えなさい。

問五 線②「忘れてしまうことが多いのだが」と同じ意味になるように、次の[]にひらがな二字の言葉を入れなさい。

忘れてしまい[]なのだが

問六 (1)・(3) にあてはまる言葉を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ただし イ むしろ ウ だから エ 例えば

問七 線③「そのようなもの」の指す内容を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 身のまわりの情報
イ 順位がつけられないもの
ウ よく売れた製品
エ 忘れてしまうもの

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たちの生活には常に「順位」が付きまわっている。製品の売り上げやテストの点数など、ものごとに順位をつけることによって [] ので、たしかに便利ではある。よく売れた製品ほどいい製品であることが多いし、テストの ① 結果を見て自分の順位が上がっていれば、さらにがんばろうと思うだろう。ア しかし 私たちには ② 順位が ③ つけられない ④ ものだってカある。身のまわりの情報ばかりに気を取られて ⑤ 忘れてしまうことが多いのだが、(1) 生活の中には ⑥ そのようなものが多い。(2) 私たち一人ひとりの個性が ア げられる。個性は タンジュン に一つの見方だけでは比べることはできないし、そもそも比べられないものだ。自分の持つ個性に向き合い、人と比べることなく伸ばしていくことが大切だ。(3) 秩序のない「個性」はただの「自分勝手」なのであって、本当の個性とは言えないのではないだろうか。

問一 線 a・b のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 本文中の [] に入る表現としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア わかりやすい目安ができる
イ 快適な生活を送ることができる
ウ 勉強のやる気を増すことができる
エ 買いたい物がしやすくなる

四

ことわざには「〜に〜」という言い方をするものがあります。次の①〜⑤の（ ）に入る言葉を後のア〜クから選び、また意味をケ〜タから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし同じ記号を選んでもかまいません。

- ① 鬼^{おに}に（ ）
 ② 泣^なき面^{つら}に（ ）
 ③ 立^たて板^{いた}に（ ）
 ④ ち^ちょうちん^{ちん}に（ ）
 ⑤ 寝^ね耳^{みみ}に（ ）

ア 船 イ 仏 ウ 蜂^{はち}
 オ 金棒 カ かすがい キ つりがね ク 小判

ケ 手ごたえやききめがないこと。
 コ 悪いことのうえにさらに悪いことが重なること。
 サ 突然^{とつぜん}のことであわてること。
 シ どんな扱^{あつか}いをうけても平気でいること。
 ス そのことをよく知っている人に教えてしまうこと。
 セ すらすらとよどみなく話すこと。
 ソ ただでさえ強い上に、さらに強さが増すこと。
 タ 似ているようでまったくつりあわないこと。

五

言葉には、二つ以上の意味を持つものがあります。次の①〜⑤の言葉が持つ意味を後のア〜コからそれぞれ二つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① ほころぶ ② かじる ③ かたむく
 ④ つのる ⑤ いたむ

ア 固いものを少しずつ歯でかみ取る。
 イ ますます激しくなる。
 ウ 物がきずつく。
 エ つぼみが少し開く。
 オ 広く呼びかけて集める。
 カ 悲しみを感じる。
 キ 一方にかたよる。
 ク 物事の一部分だけを知る。
 ケ 縫^ぬい目がほどける。
 コ 勢いがおとろえる。

名	
---	--

Journal of Management Inquiry 22(4) 399–414 © The Author(s) 2013. Reprints and permissions: sagepub.com/journalsPermissions.nav DOI: 10.1177/1056492613505211

問		
い		
—		
a		
b		
c		

問 い 三	
問 い 四	
最初	
最後	
問 い 五	

[illegible]

問
い
七

[illegible][illegible]

問 い 一	a	
	b	
	c	
問 い 二	1	
	2	

問 い 四 1		
2		

問 い 五		
問 い 六		

[illegible][illegible]

問 10	2		
------	---	--	--

問 い 一	a				
	b				
問 い 二					
問 い 三					
問 い 四					
問 い 五					

問 い 六		
1		
2		
3		
問 い 七		

		①			
		②			
		③			
		④			
		⑤			

意味	言葉

①	
②	
③	
④	
⑤	